

—— ✂ —— キリトリ線
- - - - 山折り線
- . . . 谷折り線

携帯電話用地震関連情報ページ
<http://www.hit-u.ac.jp/m/>

- ・安否確認
 - ・学内の被害状況
 - ・図書館等学内施設の利用の可否
 - ・休講、授業再開の見通し
 - ・式典等の実施予定
- ホームページ、SNS、電子メール、手紙等、状況に応じ利用可能な手段により、大学から随時情報を発信する。

大学からの連絡

大学への安否報告(震度5強以上)

帰宅後、又は安全な避難所を確保した後、大学へ安否を報告する。

①**安否確認システムで報告する場合**
国内において震度5強以上の地震が発生すると自動的に安否確認メールが送信されるので、それに回答する。

※システムが利用できない場合は、電子メールによる報告をしてください。
※電子メールによる報告ができない場合は、ハガキによる報告をしてください。
〔一橋大学安否確認システムANPIC〕

<https://www.hit-u.ac.jp/function/outside/bosai/safety.html>



②電子メールで報告する場合

- ・送信先：anpi@ad.hit-u.ac.jp
- ・件名：一橋大学安否報告
- ・記載事項：氏名、学籍番号、怪我の有無、住所（届出以外の場所へ避難している場合は避難先の住所）、その他（困っていること等）

③ハガキで報告する場合

〒186-8601東京都国立市中2-1
一橋大学安否確認班

NTT災害用伝言ダイヤルサービス

電話番号をキーにして、安否等の情報を音声で登録・確認できる。

・利用できる端末/NTTの一般電話、公衆電話、携帯電話

・伝言蓄積数/1電話番号あたり1-20伝言

・録音時間/1伝言につき30秒以内

・伝言保存期間/災害用伝言ダイヤル(171)の運用期間終了まで

・被災地、被災地以外とも利用方法は同じ

・利用方法

①171へ電話をかける。ダイヤルが流れる。

②伝言を録音する場合、1+市外局番+電話番号

伝言を再生する場合、2+市外局番+電話番号

NTTDCam(web171) 楽天モバイル



その他 災害用伝言版サービス

緊急時連絡メモ

氏名 _____ 学籍番号 _____

住所 _____

電話番号 _____

血液型 _____ アレルギー _____

服用薬 _____

本人以外の緊急連絡先 _____

氏名・続柄 _____

住所 _____

電話番号 _____

その他 _____

大地震に遭遇したときは—危機回避の方法—
編集発行：一橋大学危機管理室
2024年5月発行
〒186-8601東京都国立市中2-1

揺れがおさまったら

- ・余震が発生することもあるので、引き続き建物や器物の崩落、倒壊に気を付ける。
- ・負傷者がいる場合⇒可能な範囲で応急手当を施し、最寄りの事務室へ連絡。
- ・火災が発生している場合⇒可能な範囲で初期消火を試み、最寄りの事務室へ連絡。
- ・周囲の状況から、避難場所へ移動するか判断。
 - ①周辺に火災の発生がない
 - ②柱や壁に大きな損傷がない
 - ③落下物による危険がないはい⇒その場を動かない方が安全
いいえ⇒避難場所へ移動

移動・避難するときの注意

- ・ハンカチ、タオル、衣服の袖等で口を覆い、煙や埃を吸わないようにする。
- ・手荷物や衣類で頭部を保護する。
- ・エレベーターは使わない。階段を使う。

〔学内避難場所〕

陸上競技場、野球場（西キャンパス）
テニスコート（東キャンパス）

帰宅の判断

- ・現在地から自宅までの交通機関の運行状況、停電の有無、その他周辺地域に関する災害情報について、テレビ、ラジオ、信頼できるニュースサイト等で正確な情報を得てから、帰宅するかどうかを判断する。
- ・災害時に徒歩で帰宅できる目安は、20km。状況が流動的で安全が確保できない場合は、無理に帰宅しないこと。
- ・災害時帰宅支援ステーション（都立学校、コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンド等）では、水道水・トイレ・帰宅支援情報等の提供を受けることができる。

帰宅困難な場合

最寄りの一時滞在施設へ。水、食料、毛布等の提供が受けられるほか、ラジオ等の災害情報を得ることができる。

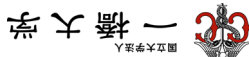
〔学内避難所〕

状況により、体育館及び武道場（東キャンパス）を学内避難所として開放する。

大地震に遭遇したときは

—危険回避の方法—

2024年5月発行



緊急地震速報を受信したら

- ・窓ガラス、棚、黒板、壁、扉、電柱等、破損、落下、倒壊等の危険のあるものから離れる。
- ・ドアを開け、出入口を確保する。
- ・火器を使っている場合は直ちに火を消す。

大きな揺れが起こったら

構内の建物にいる場合

- ・あわてて戸外に飛び出さない（構内の建物は耐震基準を満たしている。）。
- ・頑丈な机の下等にもぐって身を守る。
- ・手荷物や衣類で頭部を保護する。
- ・エレベーター内では、焦らず冷静に「非常用呼び出しボタン」等で連絡をとる。

構内の屋外にいる場合

- ・落下物や倒壊物の危険のない場所にしゃがんで揺れがおさまるのを待つ。

学外にいる場合

- ・周囲の状況に注意し、落ち着いて身の安全を確保する。